

「木の上の軍隊」伊江島と「宝島」の舞台を訪ねる 沖縄戦と戦後史を学び、今を知る旅 旅程表					
日次	都 市	時刻	交通機関	日程（宿泊）／食事	
① 1月25日 （日） ・ 3月6日 （金）	東京・羽田空港発 沖縄・那覇空港着 空港発 ホテル着 夕食場所着	午前	航空機	羽田空港から空路、沖縄・那覇へ （羽田空港集合 午前7時～8時頃予定）	
		午後	専用車	* 嘉数高台（普天間基地を遠望） * 辺野古 ホテルチェックイン・お部屋割り ◆夕食参加者交流会	
				食事：×・×・夕／名護市内泊	
② 1月26日 （月） ・ 3月7日 （土）	ホテル発 本部港着/発 伊江港着 伊江港発/本部港着 那覇市内ホテル着	8:00	専用車 フェリー 専用車	フェリーで本部港から伊江港へ ＜終日：「木の上の軍隊」伊江島見学＞ * ニーバンガジュマル * 伊江島飛行場跡 * 団結道場 * 公益質屋跡 * 城山（外観） * わびあいの里 など 再びフェリーで本部港へ 着後、那覇へ移動	
		夕方	フェリー 専用車	食事：朝・昼・夕／那覇市内泊	
③ 1月27日 （火） ・ 3月8日 （日）	ホテル発 沖縄市 うるま市 嘉手納町 ホテル着	午前	専用車	専用車で中部の沖縄市・コザへ ＜『宝島』の舞台を訪ねる＞ * 沖縄市コザ…コザ騒動の現場など * 宮森小学校 （1959年6月30日 米軍ジェット機墜落現場） * 嘉手納基地周辺	
		午後		食事：朝・昼・夕／那覇市内泊	
④ 1月28日 （水） ・ 3月9日 （月）	那覇空港集合 発 羽田空港着	午後	航空機	終日：自由行動 ご希望者にオプションツアーご案内（詳細は下記） 那覇空港集合（15時半～17時半ごろ、1か月前決定） 航空会社チェックイン （羽田空港到着 19時00分～21時頃予定）	
				食事：朝・×・×	
※現地事情で見学日時・順序が入れ替わる可能性があります。予めご了承ください					

オプションツアーのご案内

南部戦跡めぐり

お一人様¥9,000

（専用車・平和ガイド同行・入場料・昼食付）

※10名以上で実施

＜見学予定地＞

＊アプチラガマまたは南風原

＊ひめゆりの塔と資料館

＊魂魄の塔

＊平和祈念公園

（韓国人慰霊塔・平和の礎）



沖縄を舞台にした映画作品

「木の上の軍隊」

井上ひさし原案の舞台劇。こまつ座「戦後“命”の三部作」の第2作。2013年初演。沖縄県の伊江島を舞台に、終戦を知らぬまま2年間ガジュマルの木の上で生活した2人の日本兵の物語を実話をもとに描いた三人芝居。2025年7月に映画版が公開。ガジュマルは2023年8月の台風で倒木しましたが、地元の人々の手で再建されました。

“コザ騒動”とは？



沖縄がまだアメリカによる統治下にあった1970年。12月20日の未明から早朝にかけて、コザ市（現沖縄市）で群衆が米憲兵や外国人の車両を次々と横転させ、炎上させるという騒動が起きました。
騒動は、米人車両が地元住民をはねる交通事故を起こしたことがきっかけとなっています。同年9月には糸満町（現糸満市）で米兵が主婦をひき殺した事件について、11月に軍法会議が無罪判決を下したばかり。さらに知花弾薬庫にマスタードガスなど毒ガス兵器の貯蔵が発覚し、ガス漏れの懸念が広がるなど、米側に対する沖縄住民の不満が頂点に達していました。
こうした背景から、交通事故現場に居合わせた人の間で不満が爆発し、反射的な直接行動が一気に拡大したとみられます。コザ騒動はコザ暴動とも呼ばれ、戦後沖縄で最大の民衆蜂起となりました。（2016年12月20日琉球新報 沖縄戦後新聞より抜粋）

宮森小学校・米軍機墜落事故現場

1959年6月30日、突然米軍のジェット戦闘機が墜落、炎上しながら宮森小学校へ激突し、学童12名近隣住民6名の尊い命が奪われ重軽傷者210名という大惨事となりました。毎年6月30日は慰霊祭が執り行われています。



写真：米軍機墜落当時の様子
提供：キーススタジオ

辺野古 新基地建設のこと

知っておきたい

沖縄本島北部の東海岸にある大浦湾は、多様な生態系を誇り、世界的にも貴重なアオサンゴの群集とジュゴンが息息する海です。そんなキレイな海を望む名護市辺野古では、普天間基地の移設先として新基地建設が進んでいます。2018年9月30日投開票された沖縄県知事選では、翁長雄志知事の遺志を継ぎ、辺野古新基地反対を掲げて初当選した玉城デニー前衆院議員が、過去最多となる39万6632票を獲得しました。2019年2月24日に実施された辺野古米軍基地建設のための埋立ての賛否を問う県民投票では、県民の7割が反対を示しましたが、国は移設に向けた工事を続けました。「基地がある所は狙われる。二度と悲惨な戦争は起こしてはいけない」「未来を生きる子どもたちにきれいな海を残したい」という思いで、多くの人が現在も基地反対の座り込みを続けています。

国は、大浦湾のマヨネーズ並みとされる軟弱地盤の改良工事を沖縄県に申請しましたが、県はこれを不承認とし、埋め立て工事はストップしていました。工事を承認しない県に対して国が行った是正の指示が違法かどうかが争われた裁判で、2023年9月、県の敗訴が確定。その判決により、県は工事する義務を負いましたが、応じない姿勢をとりました。そのため、国は、県に変わって国が代執行を行う訴えを起こし、裁判所は認めました。地方自治法に基づく代執行は初めてで異例の事態です。県は判決を不服として最高裁判所に上告するものの、県側が勝訴するまで代執行を止めることはできず、2024年1月から防衛省は大浦湾の工事に着手しています。

「宝島」

原作小説は真藤順文作、2018年に講談社より出版。「リュウキュウの青」「悪霊の踊るシマ」「センカアギヤーの帰還」の3部からなり、沖縄戦直後から始まった1952年の米軍統治時代から沖縄が日本に復帰した1972年までの沖縄を舞台としています。映画は2025年9月に公開されました。

伊江島

沖縄の縮図といわれる闘争の島

伊江島は沖縄本島北部、本部半島の沖に浮かぶ島です。島の中央には「タッチュー」と呼ばれる鋭い三角形のシルエットを持つ山（城山）がそびえ、本島からもその特徴的な姿は望めます。沖縄戦では有数の激戦地となりました。戦後は軍用地の接収率が最も高い島となり、その存在は島の人々の暮らしを大きく圧迫しています。かつて島民が学習し、戦う力を高めた「団結道場」や、土地闘争の中心人物だった故・阿波根昌鴻氏が設立した「やすらぎの家」と「わびあいの里」は訪れた人に土地闘争の軌跡を通じて伊江島と沖縄の現状を伝える貴重な場となっています。



◀城山（タッチュー）

団結道場▶



辺野古の浜

